

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2019 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No. 2_3/3_1	タイトル 公共交通で豊かなまちづくり	自治体名 八戸市
アイデア名(注2) (公開)	バス料金の無料化		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2019 サイトの中に記載してあるエントリー自治体(連合)が掲げる地域課題を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームが応募されるアイデアにつけるものです。アイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名(公開)	野沢と愉快的な5人の仲間たち		
チーム属性(公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input checked="" type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	6名		
代表者情報	野沢 一磨		
メンバー情報	氏名(公開)	富樫 響 鈴木 舞 木村 愛美 藤村 凜音 岩崎 陽香	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2019\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2019 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2019@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「3. 自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

## 2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

バスの利用客の減少

<解決アイデアの内容>

これまでバス運賃は有料で金額を支払うものですが、八戸市民（八戸市に住民登録をした方）を対象に、住民の方は「グリーンカード」というものを提示することでバス運賃は無料になるサービスです。

住民以外である観光客、「グリーンカード」をお持ちでない方は今まで通り金額を支払います。

バス運賃が無料になる場所は、最初から全ての地区・地域ではなく、人がより多く行き来する「大型ショッピングセンター（ラピア・ピアドゥ）、中心街、本八戸駅」区間が対象になります。このアイデアが上手くいくなのであれば区間を徐々に広げていき、最終的には八戸市全体を無料化します。

対象外の方は現在実施されている「一日乗車券・回数券」を利用します。

期限は一年で切れたら更新することで再び利用することが出来ます。



## (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

バスの利用客の減少を問題視し、これを改善すべく運賃無料化を考えました。このアイデアを実現することができれば以下の効果が期待出来ます。

- 1 運賃無料化による利用客の増加
- 2 公共交通の利用が増えることにより、自家用車の減少。それに伴い、二酸化炭素の排出が減ることにより自然環境に良い
- 3 八戸市民限定にすることで住民の増加、若者の八戸市離れを減少
- 4 お金の使い道をバスの運賃ではなく買い物に使うことで、地域経済が活性化する。（公共交通機関の利用により外出する人が増える） 税収の増加。

### 証拠

エストニアの全国規模で無料化

日本記事

<https://ideasforgood.jp/2018/07/24/estonia-free-transportation/>

海外記事

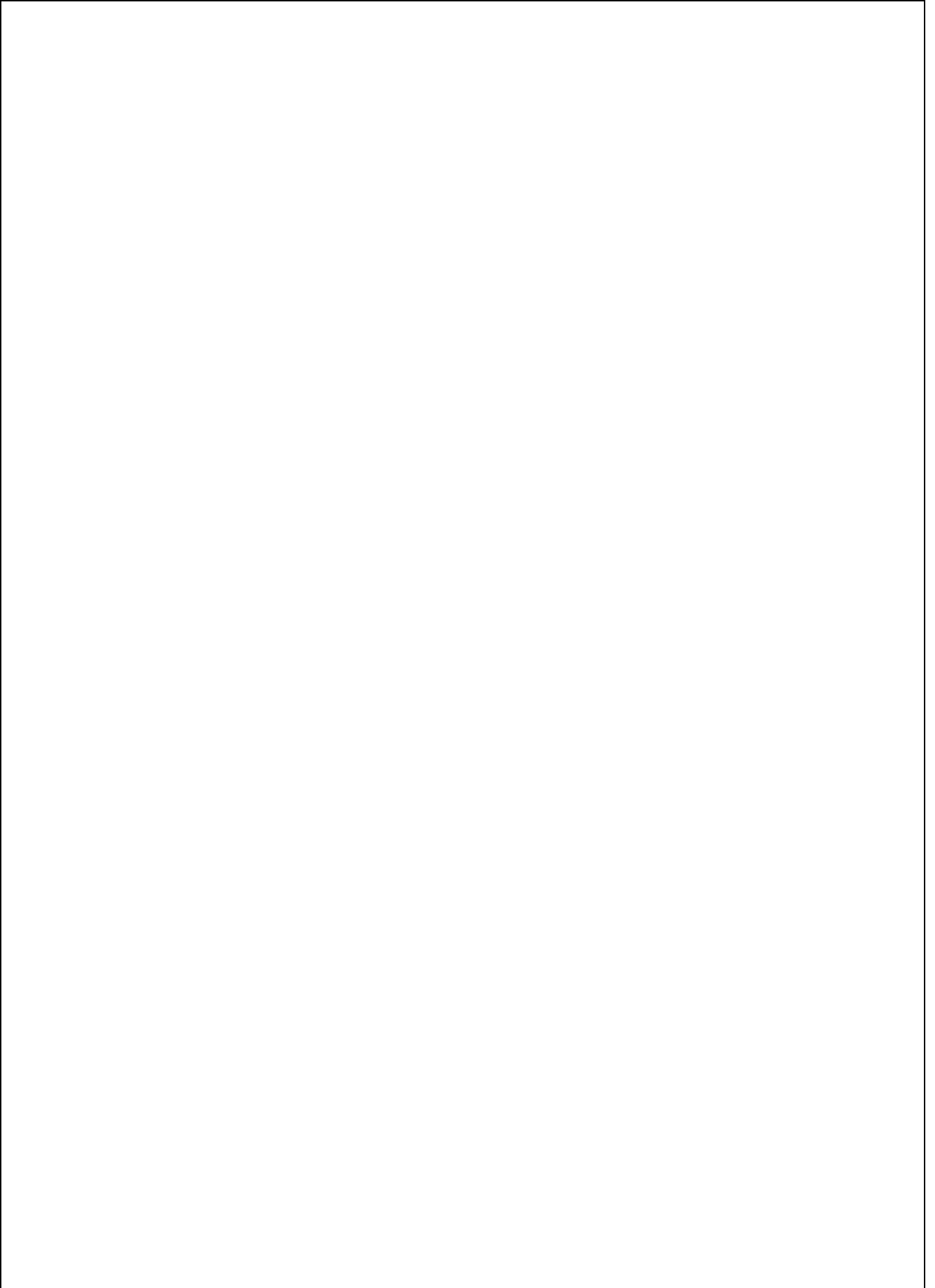
<https://www.weforum.org/agenda/2018/06/estonia-is-making-public-transport-free/>

県内では、熊本県が一日だけ「電車・バス無料の日」が実施され、その結果によると電車・バスの利用率が普段の土曜日より 2.5 倍。老舗百貨店や大きな商店街が並ぶ中心市街地の来訪者数は 1.5 倍に増加、お昼時（12時）には約 2 倍の増加。渋滞の長さ（最大渋滞長）は 59%減少。バスの乗客アンケートでは、「日頃は公共交通を利用しない」人が約 36%を占めている結果が出ています。そして九州産交グループでは、「無料の日」の経済効果を約 5 億円と推計しているそうです。

熊本県一日だけ「電車・バス無料の日」実施

<https://news.nifty.com/article/economy/economyall/12203-91419/>

しかし、この効果は電車とバスの熊本県の結果であり八戸市ではまだ効果があるのか分からないので、八戸市も熊本県と同様に一日限定で実施して確かめる必要があります。



### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

バス賃無料化に向けて、最初に実施による効果を立証する必要があります。そこで八戸市営バスさんと協力して一日限定でバスの運賃を無料化し、それによる八戸市の利用者の増減など具体的な数値を集めます。

効果が期待出来ることが立証する事ができれば実施に向けて次の行動に移ります。

バス運賃無料化により、バスを運営するための資金の調達です。

調達の方法として八戸市の「ふるさと納税」を利用して、これまでの運賃収入を補う資金を集めようと考えています。

ふるさと寄附金使途内訳↓

<https://www.city.hachinohe.aomori.jp/furusato/files/kihukinnjisseki.pdf>

八戸市のふるさと寄附金額

<https://www.city.hachinohe.aomori.jp/furusato/zisseki.html>

その他の調達方法には「八戸市の財政（経常的収入）から資金の調達」も視野に入れています。

※経常的収入の残りは、新たな事業や臨時的経費に充てることが可能なため

八戸市の経常収支比率は 91.9%

八戸市の財政 –平成 30 年度決算版–より

しかし、資金に関して私たちが容易に八戸市の財政を使う事は出来ないので大人の方と話し合い、許可をいただく必要があります。

資金を得ることが可能になれば、次に支払う人を見分ける方法です。

見分ける方法は、海外で無料化を実施したエストニアを参考にして「グリーンカード」を使います。



定期券と同様で「グリーンカード」には「期間・名前」が記入されていて、はっち・ラピア・旭ヶ丘営業所・八戸駅で住民票を提示しカードを申し込み、運転手に見せることで購入日から一年間無料で乗車でき、多く乗るほどお得になります。利用期間が終了した場合、更新することで利用することができます。対象は、住民登録をしている八戸市民とし、八戸市の決められた区間が無料です。

ふるさと納税に関して八戸市では新たに「体験型」を追加したいと思います。（木のコップ作り、蕪島神社のトレッキングプランなど）体験型を追加することによりさらに八戸市に人を呼び込む事ができます。

しかし公共交通を多くの人に利用していただくにはきっかけが必要で、バス料金を無料にするだけでなく現在八戸市では買い物をする施設が多くありますが、中高生が行きやすい運動施設や友達と一緒に勉強できる場所がないため、「ROUND1」や勉強できる広いカフェなど若い人が集まりやすい施設を造る必要があると思います。

#### 参考

八戸市のレジャー・遊び・体験

<https://www.asoview.com/location/are0020900/>

海外の公共バス無料化に関する記事

<https://www.aripaev.ee/uudised/2018/04/26/must-teadmatus-kaks-kuud-enne-tahtaega?kmi=ECIbJBuxtDpC%2F8kuvjpCEz0I8vo%3D>

エストニア（公共交通無料化実施）に関する記事

[https://amp.review/2018/07/19/estonia\\_public-transport-2/](https://amp.review/2018/07/19/estonia_public-transport-2/)

ドイツの公共交通無料化の取り組み

<https://ideasforgood.jp/2018/02/15/germany-free-transportation/>



